

# 潮流



2013  
9月号  
No.233

大津島(平成25年8月1日現在)  
人口 360人(男155人 女205人)  
高齢化率 71.7%

馬島港



夏場の旬は、鱧(ハモ)がオススメじゃね。最近、素潜り漁で、サザエやウニを獲っちゃうよ  
漁師 古城隆夫さん

瀬戸浜



最近、小まあけのアジが釣れちゃう。先日は、大きなタナゴが一匹釣れたんよ。  
釣り名人 中濱末喜さん

近江港



今の時期の旬は、鱈(スズキ)じゃね。エビを漕いでから、一本釣りで鱈を釣っちゃうよ。  
漁師 石田政秋さん

## 島の港

大津島には、各地域に港があります。島で生活する上で、港は地域の玄関口であり、生活の要となる場所です。今回は、島の夏の風景と共に、各港の様子を、漁師さんや、釣り名人に話を聞いてみました。

天浦港



例年じゃとエソやアジを釣っちゃうんじゃが、今年は暑さの影響であんまり釣れんね。  
釣り名人 安達敏夫さん

刈尾港



アジ、クロ、キスが、釣れちゃうよ。今は、良型のアジが一番美味しいね。  
釣り名人 河島敏秋さん

本浦港



最近、タコ漁が主じゃね。今年の漁獲量は、例年と変わらんね。  
漁師 佐々木義守さん

## 大津島の人々(1)



高松 工(たかまつ たくみ)さん  
大正11年生まれ。元回天記念館館長。91歳の現在も、養浩館館長として現役で仕事をされている。

Q、生い立ちをお聞かせ下さい。  
A、大津島に生まれ、馬島小学校、徳山中学に通いました。母は三六歳の時夫を亡くし、女手一つで四人の子供にちゃんとした教育を受けさせました。苦労したと思います。  
Q、昭和一八年九月、二歳の時、海軍技術士官試験に合格されていますが、大変な難関だったそうですね。  
A、専門は電気工学でしたが、一五名の合格者は殆ど東大で、私の大学からは初めてでした。  
Q、海軍ではどんな任務に就かれたのですか。

A、技術研究所に入ったのですが、研究している戦局ではないと聞かされ兵科に転向となりました。中尉に任じられ、横須賀の航空隊ではサイパン戦の攻撃機、硫黄島戦の時は館山航空隊で偵察機、沖縄戦の時は九州で特攻機と、主として航空機の整備や発進の責任者を務めました。沖縄戦の最中に電報で兵に呼び出され、米軍の本土上陸を迎え撃つべく、偵察機に水雷を抱かせた特攻機の開発を命ぜられました。間もなく終戦になりました。  
Q、わずか二年の間に！回天との関わりは？  
A、同期生が回天に大勢居て、殉死者も沢山でした。そんな縁で、昭和四三年にできた回天記念館の館長を三〇年勤め、その後顕彰会の会長を経て、今は名誉会長です。  
Q、九十一歳でそのお元氣さ！何か秘訣はありますか。  
A、特にありません。自然環境の良い大津島で暮らしているお陰でしょう。  
(聞き手・文 末兼)

お盆の時期になると、どんなに遠く離れていても、ふるさとに母の笑顔が思い出されます。

団果

猛暑の後は、涼しい秋がやってきます。花が咲けば、実はなる。人生はいつもそんなものかもしれない。一度きりの人生、花も実もあるように生きてみよう！

季節の俳画  
ほおずき  
ふふふの母の笑顔  
安達照子

重源が克服しなくてはならなかった難題は、前回述べたような技術的問題だけではなかった。資金の欠乏、労働者の不足、食料の窮乏、治安の乱れ等々である。押し寄せる難題に対するに当たって、重源は類い希な計画力・実行力・管理能力のみならず、時にはワルとも思えるしたたかな政治力を発揮した。興味深いエピソードは数多いが紙数が足りない。一つだけ石風呂の話が挙げておく。  
過酷な労働で怪我人や病人が多く出、その治療と保養や娯楽のため、重源は石風呂を考案した。その跡も含めると徳地には三三カ所が残っているという。  
今も現役である本浦の石風呂も重源を起源とする。重源が徳地に入ってから一七年後の西暦一二〇三年、南大門が完成してすべての伽藍が再建され、東大寺再興の事業は完全に成就し、総供養が行われた。重源は時に八十三歳、そしてその三年後に入寂する。大仏殿をはじめとする重源の汗の結晶は、戦国時代に兵火で焼失するが、南大門と金剛力士像は免れた。大平山の向こうで伐り出され、大津島の潮を吸った材で作られた南大門や金剛力士像が、今なおそのまま存在し、国宝であり世界文化遺産であることを思うと胸はときめく。  
また、重源がこの大事業を成し遂げた歳を思うとき、ガンバラナックチャと元氣が出るのである。

## 海の街道・七

【重源上人・後】



東大寺南大門  
(国宝・世界文化遺産)  
文=末兼正純

大都會の釣天狗を迎えて

瀬戸浜の太公望

毎年東京から三人の老釣師がやってくる。いつも同じメンバーだが、この人達は日本を代表する一流企業の役員であった人達で、それぞれ立派な経歴の持ち主であり、現役を退いたとは云え、頭脳明晰で多岐専門分野で活躍していると聞く。

この優秀な人たちが、吾等が自慢の島大津島に来る目的は黒鯛(チヌ)を釣りたいという一心からである。

アシケらいならともかく、実にこの老釣師達は厳しい魚を目標に掲げたもんだ。と感心していた矢先、この老釣師達の目標達成のため手伝ってもらえないかと島の知人を介して話があった。

「いなかの太公望」としてもチヌとなると胸の高鳴りを覚える程の魅力のある釣りだ。「渡りに舟」とばかりに引き受け、一緒に楽しむことにした。

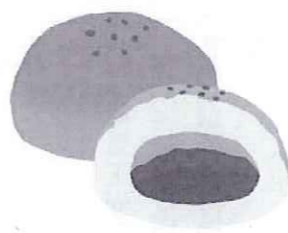
三人とも釣りの経験はあるようだが、竿捌きを見ると少し心配になってきた。しかし人は見掛けによらぬものと云う諺もあることから、まずは竿合わせをしたところとでもチヌ釣りにはほど遠く、いろいろ餌を替えたり、団子釣りに方法を変更したり「いなかの太公望」も悪戦苦闘を重ねながら老釣師の望みを叶えるよう試みたが、大津島のチヌのガードは堅く顔を見せない。

「いなかの太公望」も遂には冷静さを失い持参してきた餌を全部一気に放ったところ海面の色が変わり、どこから湧いてきたのかグリの魚群が発生して今迄の「無音(ぶいん)が嘘のよう。いきなり老釣師の竿が折れんばかりの曲がりよつた。「釣れた!」声も若人のような喚声に「いなかの太公望」の顔もほころびてきた。

今回はチヌにはならなかったが、チヌに近い強烈な手応えに、きつと老釣師達にも釣りの醍醐味を楽しんでもらうことができたと思っている。

このこと、大津島の美しい自然の中で綺麗な空気を一杯吸い、新鮮な魚介類に接しながら「次は是非チヌを釣りに上げるぞ」と意気軒昂な老釣師達の声が聞こえてきた。(文責 大沼清二郎)

知っちょるかね



「パンを撒けえ」

文=松本 千恵子

青い空に輝く銀翼、その銀翼がクルリと翻って、低空飛行に移ったと思ったら、操縦士の顔がはつきり見て取れる位のところまで降りてきて、やにわに操縦士の反対側の人何やら掴んでは投げ、掴んでは投げ。ああ、いつもこのピラダな、それにしても何かが様子が違うぞ。そこで大人達が拾っているものを見たから、なんと空から撒かれる物はすべてパン!それからはいくらももう狂喜乱舞。「パンじゃ、パンじゃ、パンじゃあ」手当たり次第に拾う拾う。気がついたら、飛行機の姿はなく、大ぞうけに山盛り二杯のあんぱんの山。貧しくて、甘いものなどめったに口に出来なかった時代。今日からパンが腹一杯食べられる、子供心に

おためし暮らし住宅「しまのわ」オープン



文=大津島地区コミュニティ推進協議会

八月一日、瀬戸浜 倉ノ窪に、おためし暮らし住宅「しまのわ」がオープンしました。七月三十一日には、島内の里の案内人への研修会も開かれ、大津島の定住促進事業が本格始動しました。

おためし暮らし住宅とは、大津島へ移住を希望される方が、大津島に一定期間滞在し、実際に島での暮らしを体験してもらうための施設です。「しまのわ」の名前には、四つの想いが込められています。

- 一、(ま)は、人の輪。あったかい人情が溢れます。
二、(和)は、なごみ。潮騒が穏やかに楽しめます。
三、(つ)は、話。宝物いっぱい話話はつきません。
四、(わ)は、窪。場所は瀬戸浜の倉ノ窪です。
「しまのわ」での体験を通して、滞在された方が大津島の魅力を肌で感じ、空き家を活用した移住が進むよう、里の案内人さんと一緒にすすめていきます。

【ご利用方法】
●期間 最長二週間
●対象者 島への移住をお考えの方など
●料金 七日以内一万五千元 以降二千元(二日)加算
詳細お問い合わせ・予約受付先
大津島支所 〇八三四(八五)二〇〇一

「若潮の会」ができました! よろしくお祈りします!
平成25年8月15日第3回出身者意見交換会が開催され、17名の参加がありました。そこで、島外にいても大津島を想う団体を設立しました。ご支援よろしくお祈りいたします。 世話人 野間久生(刈尾)

大津島の最新情報 更新中!!
http://i-8996-ozsima.jugem.jp/
QR code

- 1. 綱領
(1) 遊び心でやろうじゃ! えらい事もあるが、みんなが楽しむ心で!
(2) 動く心でやろうじゃ! 結果を恐れずちょっと動いて風を起こす心で!
(3) もやい心でやろうじゃ! 船と船をつなぎ合わせる「舳い綱」の様に協力し合い、またお互いに助けあう心で!
2. 活動方針
島の伝統文化を伝授、伝承し、島の魅力の再発見に繋げること。
3. 活動内容
地域活動のお手伝い
地域行事への参加
4. 入会対象者
島出身者及びその家族



ひろしのつぶやき



【飯と焼肉】
文=屋野 廣志

昨日も八〇〇名の熱中症患者が、移送されたというテレビ報道。その中の一人が、点滴に繋がれ病床にいた八十二歳、男、筆者である。未だ一度の入院経験もなく、自信過剰のこの男。十二歳の時に、疫病チフスに冒され、命を取り止めた。村医、末兼祖父に「お前は生涯いかなる病にも打ち勝つ丈夫な体になった」と告げられ、海と砂浜で鍛えた体に、密かな自信を持った。六十五歳。当時毎朝三キロのジョギングなどで体を鍛え、自然治癒力を信じ、第一に休養、第二に運動、第三に食事と定め、健康であるという自意識を強く持った。年をとれば、少々の関節の痛み、少々の不具合は、当然の事と思っていた。しかし、そんな体も目まいを感じ、検診を受ける事になる。八十歳台の休養量、運動量、八十歳の食量。誰も教える者もなく、自分の体は、自分のみ知る。早く退院し、仕事をし、焼肉で腹いっぱい飯が喰いたいと、つぶやくのみ。【あとがき】
八月十四日(水)。無事退院し、白米をほおぼる。

~事務局からのお知らせ~
移動図書館<やまびこ号 Jr.>
9月6日(金) 10月19日(土)
●瀬戸浜自治会館 10:40~10:50
●大津島郵便局前 11:10~11:30
●馬島巡航待合所 13:00~13:30
●刈尾巡航待合所 13:50~14:10
「第24回大津島ポテトマラソン」参加者募集中!
【日時】平成25年12月1日(日)
【定員】先着700名(同伴観覧者含む)
【参加申込書】文化スポーツ課・各教育委員会総合出張所・各支所・各公民館・(公財)周南市体育協会等にありませう。
【申込期間】8月1日(木)~9月30日(月)まで ※定員になり次第締め切ります。
【ボランティアスタッフも同時募集中!】
こちらの申込みは、9月30日(月)までに、文化スポーツ課まで、ご連絡下さい。
【詳細の問い合わせ先】
周南市文化スポーツ課 TEL 0834-22-8624
FAX 0834-22-8428
皆様のご参加心待ちにしております。